

臭気判定士会 平成 24 年度 第 2 回意見交換会報告

平成 25 年 2 月 2 日（土）工学院大学にて講演会が開催された。題目は①「駅トイレの臭気研究について」、演者は坂本圭司氏（東日本旅客鉄道(株) JR 東日本研究開発センター）②「最近のトイレ事情」演者は小林純子氏（(有) 設計事務所 ゴンドラ代表）。参加者は 36 名（名簿：別添参照）であった。最近、居心地のよい快適空間をもつトイレに遭遇することが多い。演者は、まさにそれらの仕掛け人とも言えるお二人です。坂本氏は駅のトイレを徹底的に調査し改善策を立案・実施されています。小林氏は快適空間の創造、デザインなど建築設計分野で活躍、NHK 総合テレビの課外授業、よろこ先輩「トイレが変わる、心が変わる！」の番組に出演された方です。講演概要は以下の通りでした。

題目① 坂本氏講演 山手線内のトイレで調査した結果、男子トイレのほうが女子トイレより圧倒的にくさい。小便器がその原因である。便器周りの臭気指数 22 以下を目安として判断した。調査や対策立案にあたり、現在世の中にあるあらゆる手法（ハード、ソフト共）をかたっぱしから試した。いずれも芳しい結果が得られなかったが、臭気対策の方向性は示せたとのこと。主たる提言は次の通りであった。「排水トラップは効果がある。ただし、溝・封水機器を確実に清掃できる構造とする」「汚垂石が原因のように見えるが、においてはそんなに高いレベルではない。通常の清掃でよい」「グレーティングトイレは、清掃作業が比較的容易のため清掃員に好まれているが、底板・溝部はモルタル仕上げのため、凸凹・孔などに臭気の起因物質（バクテリアなど）が残留する」「目地部を減らす、仕上がり为非多孔性のモルタルを使用する」「清掃排水がにおい起因物質（細菌など）を拡散させていることがある。清掃の仕方を工夫する」

現在、検討中の事項は次の通りとのことであった。「光触媒タイルの使用」「グレーティングトイレの清掃方法改善」「溝の内側壁部の清掃方法を工夫する」「目地に用いる材料の選択・検討、目地部をへらす工夫」「人の嗅覚にたえられるほどの効果がある洗浄用薬剤の選択・検討」 現状を次のように認識しているとのことであった。「便器そのものはいいものが出ているが、原因はシステムにある」

題目②小林氏講演 トイレのイメージは 4K 「暗い 汚い 臭い 怖い」である。これらを払拭したいと考えた。トイレをチャームステーションとしてとらえ、コンセプトを「リフレッシュ&エンジョイ」とした。そして、選択することもできるように「急ぎの人、ゆっくりの人を分ける」「母子トイレ、父子トイレなどの導入」を心がけた。

公共トイレに対する社会的コンセプトが変化してきた要因は次の事柄である。人の意識が高級化。女性の社会進出、育児の分業。ユニバーサルデザイン（国際化）。省エネ。温水便座普及、洋式化。トイレのタブー化や差別化が減少。排泄の場から休息の場へ。メンテナンスの重要性。防災上の視点の取り入れなど。加えて、集客性ともリンクしてきた（例、渋谷のヒカリエなど）。JR 博多シティでは屋外を見ながら放尿出来る便器の配置（気分爽快）、休息コーナーなど、快適ゾーンを設けた。メンテナンス的には、見えないところも掃除する（できる）ことを心がけた。トイレ空間には光を取り入れることを工夫する（明るさ、デザイン）と気分的にも効果あり、清潔感も醸し出せる。（横浜市 伊藤）



坂本氏講演



小林氏講演



光のデザインを工夫したトイレ